



安行小だより

安行小学校 12月号
令和4年12月1日

目指す学校像

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校



カウントダウンを始めます

(150周年まで、あと365日) 校長 春川 嘉孝

先日、都内にある大学で開催された「オープンカレッジ」に参加しました。そこに、通ってはいない私でも、あの校歌のフレーズを口ずさんでしまいます。

「校歌」は、まさに、学校を象徴する歌であり、そこに通う全校生が知っているものであり、そこに通った証にもなるものです。今でも、今から40年前小学校を卒業した私でも、1番のみ歌える母校(小学校)の校歌。6年間の生活の中で、幾度となく行事の際に歌ったものです。現在の学校生活で、大きな声で歌うことのできない「安行小の校歌」を、卒業してもなお、忘れずに歌える子供たちでいてほしい。

令和4年12月1日、川口市立安行小学校「149回目の誕生日」です。

昭和四十一年制定	安行小学校 誉あれ	安行小学校 誉あれ	力をあわす 楽しさよ	大地を踏んで 仲良く	心も広く 朗らかに	世界に開く 大空の	安行小学校 わが希望	安行小学校 わが希望	からだを鍛え 伸びゆく	励みて進む 学業と	自然の心 素直にて	草木は萌えて 花咲ける	安行小学校 よいところ	安行小学校 よいところ	東に筑波 西に富士	豊かな丘に 望み見る	学びの窓の 輝いて	緑のくすの 朝日さす	作曲 白鳥省吾	作詞 中田喜直
----------	-----------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	------------	------------	-------------	-----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-----------	------------	-----------	------------	---------	---------

本校は明治6年 吉田宗作様の自宅を学び舎に始まりました。明治5年に「学制」が発表され、その翌年には「教育」の大切さを感じて、本校の歴史が始まりました。明治6年といえば、西郷隆盛、板垣退助、大隈重信、後藤象二郎などが活躍し、現在の「日本」の第一歩を踏み始める時期です。それから、第8代の校長を務めた「三上重徳先生」は「安行教育の父」として、三上様の功績をたたえる「石碑」が校庭に立っています。校歌を読み返すと「安行の自然」の中で「力強く、努力して勉強も体力もつけ伸びていく子供の姿、さらには、安行の地から、広く世界に目を向け、世界とともに、力を合わせる子供であれ」と。安行小学校で育った皆さんは、安行の地の宝であり、この地で育つことに誇りを持ち、自信をもって世界にはばたけと伝えていると感じます。

前述の「オープンカレッジ」は、3年前の12月4日、悲劇の最期を遂げた「中村哲」医師の生き方を、21年間同行した方の話を聞くものでした。その講演の冒頭で「新型コロナウイルス感染症を経験した今、これからは、他者とどうかかわっていくか、他者のためにどう生きるか、自分ファーストでは生きていけない社会、世の中になっている。中村哲医師は、まさに、利他に生きた人」と語りました。自分自身の生活も大切、でも、それと同時に、同じ境遇、苦しんでいる隣人にも目を向けることが大切で、それこそが「生きている証」ではないか。

安行小の子供たちが、安行小を自慢でき、安行小で過ごしたことを、生涯自慢できるよう、お互いを認め合い、高めあえる人になるよう、教職員一同、尽力いたします。

この一年間、保護者、地域の皆様には、本校教育活動へのご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。来年もよろしくお願いたします。